

議 事 録

会議の名称	令和7年度 常陸大宮市総合教育会議
開催日時	令和8年1月26日（月） 午後1時30分
開催場所	常陸大宮市役所2階 大会議室202、203
出席者	<p>鈴木市長、小野教育長、橋本教育長職務代理者、宮本教育委員、 菊池教育委員、楠教育委員</p> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>木村教育部長、小泉学校教育課長、高橋生涯学習課長、戸澤文化スポーツ課長、相田学校教育課課長補佐、長嶋学校教育課課長補佐、関学校教育課指導室長、木村学校教育課指導主事</p> <p>(事務局)</p> <p>内田企画部長、秋山秘書広聴課長、砂川秘書広聴課主査</p> <p>(傍聴人) 2名</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協議題</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 学力向上にコミットする教育の推進について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 義務教育施設の適正配置について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点筆記

会 議 内 容

〈午後 1 時 30 分開会〉

○内田企画部長

ただ今から、令和 7 年度常陸大宮市総合教育会議を始めさせていただきます。
それでは始めに、鈴木市長よりご挨拶を申し上げます。市長よろしく願いいたします。

○鈴木市長

本日はお忙しい中、令和 7 年度常陸大宮市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より本市の教育の充実・発展のため、多大なるご尽力とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

本日の 1 つ目の協議題であります「学力向上にコミットする教育の推進について」であります
が、本議題は、施政方針の大きな柱の 1 つとして掲げている取り組みであります。報告では、着実に成果が出ていると伺っているところでありますが、本日は、今後の更なる推進に向けた等につきまして、協議を深めていきたいと考えております。

次に、2 つ目の協議題であります「義務教育施設の適正配置について」ですが、令和 4 年 11 月の審議会答申では、平成 31 年 4 月の明峰中学校と御前山中学校の統合を最後に、当面は学校再編を行わない方針としてまいりました。しかしながら、近年の急速な少子化の進行を踏まえまして、改めて小中学校の適正配置の在り方を検討する必要性が生じたことから、今回協議題に挙げさせていただきました。

教育委員の皆様とは、教育政策の方向性をしっかりと共有し、連携を深めることで、本市のより良い教育の実現を目指していきたいと考えております。本日は有意義な会議となりますよう、皆様の忌憚のないご意見をよろしく願い申し上げまして、本会議のご挨拶といたします。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

○内田企画部長

ありがとうございました。

続きまして協議に入ります。ここからの進行は、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」第 2 条第 1 項の規定によりまして、鈴木市長にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○鈴木市長

それでは、暫時の間、議長を務めさせていただきます。まず、本日の会議につきましては、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」に基づき、公開といたします。公開の方法は、傍聴を希望する者を認めることとしております。現在の傍聴希望者は 2 名であります。ただ今、傍聴人の方に入室いただきますので、ご了承をお願いいたします。

(傍聴人入室)

○鈴木市長

次に、「常陸大宮市総合教育会議の運営に関する要綱」第5条第2項の規定により、今回の議事録署名人に橋本教育委員及び宮本教育委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、会議次第3の協議題に入ります。協議題につきましては、より意見交換のしやすい協議進行とするため、この間、企画部長に座長を任せたいと思いますので、ご了承願います。それでは企画部長お願いします。

○内田企画部長

それでは、座長を務めさせていただきます。申し訳ありませんが着座で進めます。

最初に協議題(1)「学力向上にコミットする教育の推進について」を議題とします。概要について、学校教育課より説明をお願いします。

○木村指導主事説明

○内田企画部長

説明が終わりましたので、それでは、この件につきまして皆様にご意見をいただきたいと思えます。なお、闊達な議論をできますよう、ここから自由討論により行いますので、よろしくお願いいたします。

○菊池委員

確かな学力向上といったところで、様々な取り組みを行いながら、達成に向けて取り組んでる様子を伺い知ることができました。NINOとかNRTとか、それからHyperQ-U、そして、NINOを生かした机間指導など、具体的な研修も行われていますが、8月あるいは12月に行ってる研修には、各学校からどのぐらいの先生たちが参加してるのか興味があります。私が現職の頃、研修に参加して、その内容を学校に伝達していくとなると、1人だと心もとないところがありました。それなので、8月に研修をしているということは、より多くの先生に研修に参加してもらい、その内容を日々の授業に取り入れていくという狙いがあるかと思えます。そのあたりの参加状況はどの程度なんでしょうか。

○関指導室長

それではお答えいたします。今、菊池委員の方からお話でしたが、4ページの方をご覧いただければ、組織図の方があるかと思えます。こちらの方に「学級づくり・集団づくり部会」とそれから「授業づくり・授業改善部会」の2つの部会を設けております。こちらの部会の方には、各学校からそれぞれ1名選出をさせていただいておりますので、選出していただいた先生方が本市の行われる合同研修会及びそれぞれの部会の研修会の方に、参加していただくということになりますので、部会の方に関しましては各学校1名ずつ、合同研修会になりますと各学校2名ずつというような形になります。こちらの研修会の方に参加していただいた先生方には、校内に戻って研修の内容を伝えていただくこととなります。これは、校長会を通じて各学校の校長先生にもお願いしてありますので、研修の内容は、適宜学校の方で広めていただいているというような形をとっています。

○菊池委員

ありがとうございます。ぜひ、学力向上にコミットするという形で、いろいろな方策を立てて実

践していただきたいと思います。それが各学校、あるいは各学校の先生方に少しでも浸透していくような形で、研修の枠組みをこれからも取り入れていただきたいと願っております。

○鈴木市長

いいですか。認知能力が上がったり下がったりしていますが、これは下がるより上がった方が良いでしょうね。どうしたら上がるのですか。

○木村指導主事

どうしたら上がるかという明確な手立てを見出すのはなかなか難しいですが、先ほどお話ししたように、例えば言語能力でしたら、今分からないであろう言葉があることを想定し、1学年下の誰にでも分かるような言葉を使うようにしています。あるいは、記憶力が弱い学級でしたら、授業の始めに下の学年や前学期に習ったものを必ず復習し、もう一度思い出させてから授業をすることによって、それぞれの弱いところを把握して、実践しているところです。

○鈴木市長

なかなか難しいですね。例えば、認知能力NINOの結果を見ると、現在の小学校6年生は比較的右肩上がりの推移となっています。これは、令和4年度の6年生のグラフに、彼らが3年生だった当時の数値が反映されているということです。このように学年を追うごとに数値が伸びていく形は、一つの理想と言えるのではないのでしょうか。一方で、これが学年による特性なのかという点も気になります。もし個々の能力に関係するのであれば、どうすれば能力が向上するのかという研究は避けて通れません。言語能力については、現在の方向性で良いのかもかもしれませんが、問題は処理速度です。処理速度を向上させるにはどうすればよいのか。このあたりに関する研究会などは行われているのでしょうか。

○木村指導主事

こちらにもNINOの検査を開発した先生をお招きしております。5ページにありますように、今回は黒沢先生をお招きいたしました。まず、NINOではいろいろな調査結果が出ますので、まずは数値の読み取り方を確認した上で、それぞれの能力に対してどのような手立てが有効か、現時点で有効とされる具体策をご教示いただき、それを現場で実践するようにしております。

○鈴木市長

それでは、処理速度について、どうすればよいのか教えてください。

○木村指導主事

そうですね。処理速度については、例えば、算数であれば「九九が定着していない」、「繰り上がり・繰り下がりにつまずいている」といった一人一人の詳細なデータが、各学校に届いています。毎日の授業の中でこれら全てを網羅するのは難しいですが、少しずつ積み重ねを大切に、「今はできなくても、次はできるようになる」という前向きな気持ちをこどもたちに持たせながら、取り組んでいるところです。

○鈴木市長

あとNRTについては、50が全国平均ですね。

○木村指導主事

はい。そうです。

○鈴木市長

小学校5年生については、令和4年度、5年度と右肩下がりの傾向にありましたが、令和6年度あたりから、なんとなく上がってきたような印象を受けます。これは、何か具体的な変化があったのでしょうか。

○木村指導主事

そうですね。これも、はっきりとは申し上げられないのですが。先ほどの検査のNINOを見ますと、全体的に思考力は、3年生、4年生は、中学3年生に向けた青い線が右肩上がりになっています。そうではない学年もありますが、ほとんどの学年が上がっているので、思考力が上がることで高学年や中学生になって、何らかの良い影響があるのかという気はします。はっきりと明確にはその要因は分かりません。

○鈴木市長

ということは、やはりこうしたデータを活用する先生方が、自ら研究するようにならなければだめだということですね。講師の先生を招いて受け身で聞いているだけでは不十分で、数値を自分自身で分析し、試行錯誤しなければ使いこなせません。この種のツールはそういうものですよ。そういった意味で伺いますが、常陸大宮市内の先生方はどうでしょうか。しっかりと取り組んでいただけているのでしょうか。

○木村指導主事

今年は特にそういった意見が、先ほどご説明した4月の運営委員会でも出ておりました。ただ聞いて研修に出ているだけでは受け身になってしまうので、今回はこの「授業振り返りシート」というものを作りました。研修に出る前に数値を全部入れ、自分のクラスはどういった状況なのかを把握した上で、実際に授業を行い、講師の先生のお話を聞いて、また戻って実践をする取り組みを行いました。NINOの読み方は少し難しかったですが、かなり市内の先生方には浸透したと思います。先生方のアンケートによる振り返りからも、今年は非常に手応えがあったと感じております。ただ一方で、データが多すぎるため、その全てを活用するのは難しいといった意見もありました。

○鈴木市長

先ほどの菊池先生のお話にもありましたが、時間をかけて取り組まなければならないのかもしれないですね。難しい問題でしょうね。

○楠委員

よろしいですか。お話を聞いて、確かにとても素晴らしい取り組みだと思いました。自分のこどもが小学生、中学生の頃から比べたら、いろいろなデータとか最新の技術を活用しながらやっていると感じました。先ほど仰ったように、それらを分析して自分の授業に生かすという、先生方の活用能力や資質を積み上げていかなければなりません。果たして先生方に、それらを自分自身で勤務時間内にこなすだけの余裕があるのかどうか、という点も一つ考えなくてはいけないのかなと思います。せっかく自分はこれを見て、こういうところは、もっとこういうふう

やりたいと思っているけれど、学力向上以外の部分で時間を取られていて、なかなかここに向き合えないもどかしさみたいなものも、ひょっとしたら先生方の方にはあるんじゃないかと思われ
ます。すごく意欲を持っている先生方が多数だと思うのですが、やはり、その意欲と時間との兼合
いも大事になるのかなと思います。本当に先生が授業に向き合えるというか、あるいは子どもた
ちに向き合えるような働き方を、常陸大宮市独自で考えていければいいのかなと思いました。

○鈴木市長

今のご意見には、非常に共感するところがあります。実際問題として、もし、子どもたちが皆優
秀であれば、先生方はより深く授業をやり込んでいるはずですが、現実にはなかなかそのよう
な子どもたちばかりではありません。まさに今、楠委員が仰ったように、「やりたいけれども、そ
こにたどり着くまでに時間を取られてしまう」というのが実情ではないでしょうか。そのあたり
については、実際どう感じていますか。

○木村指導主事

そうですね。

○鈴木市長

言わないといつまでたっても、形だけの会議になってしまいます。はっきり言ってください。

○木村指導主事

時間は実際ございません。全て授業がもちろん基本なのですが、それ以外にいろいろやるべき
ことがあります。そういった本当に時間を取ってあるかということ8月の研修とかそういった研修
の時には、その時間は研修に浸ることができるんですけども、いざ学校に戻るとやはりそう
いった時間はないのが実情になっています。

○鈴木市長

取り組んでいるのにそういった時間が確保できないというのは、どういうことでしょうか。文
科省から「あれをやれ、これをやれ」といった指示が大量にきているといった話ではないのです
か。

○木村指導主事

もちろん授業の準備もそうですけれども、アンケートですとか、事務作業ですとか、4時ぐら
いまで子どもたちはもちろんいますので、4時から4時半の退勤時間までに事務作業が30分
でできるかということ、やはり正直難しいところですので、時間がないのは確かだと思います。

○橋本教育長職務代理者

よろしいですか。学力向上にコミットしたということで、数年間やってきたわけですね。そんな
中で2ページにあるように、本市としては組織的に様々な立場の人たちが、多様な組み合わせで
取り組んできたと受け止めています。その結果としても、私自身も現場にいた経験から、毎年こ
どもたちも入れ替わりますし、なかなか即効性を求めるのは難しい面も感じております。こ
れだけ継続的に進めてきているということは、確実に市の力になっているのではないでしょ
うか。そんな中で現場の先生方の話題としては、やはり取り組みの雰囲気というか、学校の職員室の雰
囲気がすごく大切なのではないかと思っています。それは、決して時間を取って研修をするとか、

そういう意味ではないような気がしています。このようにデータが出たものに対して、学級という身近な家族のような存在であることもたち一人一人と向き合い、日常的に話題にしながら高めていく、その雰囲気づくりというんですかね。それを高めていくことによって、時間はかかるかもしれないですけども。そういったものを今後とも進めていくことが結果につながっていくのかなと思いつながりながら説明を聞きました。

○宮本委員

いいですか。私もこの表を拝見し、保護者として嬉しいなって思ったところがありました。質問調査の結果、小中学校において「先生はあなたの良いところを認めてくれると思いますか」という項目で高い数値が得られています。学校の先生が、自分のことをしっかりと見て、認めてくれていると感じている子どもが多いということは、非常にありがたいことだと思います。楠委員が仰ったように、保護者としては先生に子どもをよく見てもらいたい、良い授業をしてもらいたいという思いがあります。しかし、先生方、日々忙しそうにされています。保護者の立場からも、先生に相談したいことがあっても「お忙しそうに話しかけにくい」と感じ、そのまま機会を逃してしまうこともあり、なかなか難しい問題だと感じています。先生方の詳しい仕事内容は私は分かりません。ただ忙しそうだとすごく思うので、働き方改革を通じて、先生方が子どもと向き合える時間や、子どもたちのために考えを巡らせる時間を、もっと増やしていただきたいと願っています。

○鈴木市長

宮本委員も私も役所勤めや学校の先生の経験がないので、その実情が分からないと思うのですが。先日、今回の物価高騰に対応するための地方創生の臨時特別交付金が国から来ました。この活用方法として、何をやるかと企画政策課と協議しました。そして、プレミアム付き商品券を実施することになりました。物価高騰で今、市民の方々、非常に生活に困ってる人も多いので早期の実施を求めたところ、5か月から半年を要するという回答でした。民間企業であれば、3週間もあれば可能なことが、役所という組織ではなぜ半年もかかるのか、理解に苦しみ企画部長とも議論した経緯があります。学校現場で先生方がこれほど時間に追われている状況も、おそらく同様ではないでしょうか。教育委員の皆様が「何が1番時間を失う原因になっているのか」という詳細まで具体的に把握しなければ、抜本的な改善は難しいのではないかと感じております。その点について、皆様はどうお考えでしょうか。

○木村指導主事

失ってはいないです。朝7時半に出勤して、7時50分ぐらいには子どもたちが登校し、そこからずっと授業をして、5分休み時間を挟んでまた授業をします。給食の時間も給食指導しながら食事を取り、休み時間は子どもたちと遊び、そして4時に下校になりますので、特に何か失ってる時間があるわけではありません。命を扱っていることもあり、とにかく気は抜けません。朝から夕方までは一生懸命、授業をしながらこういったデータも頭に入れて、常に算数ならこう、国語ならこう、体育の時はこう、というように常に意識して取り組んでいるところでございます。

○楠委員

私も身内に教員がおりますので。まず、事務作業で先生がやらなくていい事務作業というのは、ないでしょうか。例えば、会計業務やアンケート集計など、どうしても担任がやらなければならないものはありますが、それ以外の事務作業を、学年ごとに事務専任のスタッフや加配の先生を配

置るといった形で、業務を分担することはできないものかと考えています。給食費は全部、引き落としされていると思いますが、学級会計や教材の印刷、次々と来るアンケートや公募への対応など、そのすべてに先生が目を通し、チェックしなければなりません。そういうところに時間を取られてしまい、実際には定時前の7時半よりも早く出勤して、事務をこなさなければならない現状があります。先生が本来あるべき姿である「こどもと向き合う時間」を確保するために、事務作業をうまく切り離す仕組みを構築できないか。言葉にするのは難しいのですが、そのように感じております。

○鈴木市長

私のイメージだと昔の先生は、問題を作るのもガリ刷りで作っていたと思います。私が小学校の頃を振り返ると、当時の先生方は、もっと時間的なゆとりがあったようにも感じられます。昔と今と、何が違ってきているのでしょうか。

○小野教育長

授業そのものが、以前とは全く違うものになってきていると思います。特に教育の場合、効率を求めようとするならば、一斉授業でワンパターンな反復を繰り返す方が、時間も作れますし効果的に効率を上げられます。しかし、今の授業というのは、先ほどのNINOの話にもありましたが、個々の多様性を尊重しながら進めていくものです。実際に教えなければならない項目も、教科によってはそれほど変わっていない部分もありますが、相当増えている部分もあります。そういった要素を授業内で展開するとすると、45分間の授業の密度が、昔とは全く違う状況になっています。それに向けた準備に加え、合理的な配慮が必要な子、学力が飛び抜けて高い子、あるいは何度教えても理解が追いつかない子などへの対応も必要です。本来であれば、NINOの「記憶力から思考力へ移行するプロセス」などの個人シートが用意されているべきですが、我々教員経験者3人が現役だった頃は、クラスの中に「なぜこの子はできないんだろう」と思う子がたくさんいても、当時はその理由が分かりませんでした。実際に分析データとして与えられることもありませんでしたから。当時はなんとなくの経験則で教えたり、一斉に授業を進めたりして、理解が追いつかなかった子に対しては、放課後に5分、10分と残して問題を多めに解かせることで、いわば「帳尻を合わせる」パターンがほとんどでした。しかし、今はそうした手法は全く通用しません。現在の学校現場では、より高いレベルの「未来を生きるための能力」の育成につなげることが求められています。そうした授業の質の変化こそが、教員の多忙化を招いている大きな原因の一つではないかと感じています。

○鈴木市長

現実としてその方向性は正しいのでしょうか。

○小野教育長

「間違っています」と言うともた大変なことになりますので、そういうことがあるのだと思います。他の市町村の教員から「このNINOやNRTはどのように使っているのですか」と聞かれることがあります。あれがあると本当に助かりますよね。特に、学習に遅れている子や、「なぜ分からないのだろう」という子、いわゆる平均的な子や得意な子よりも、置いてきぼりにしてしまいがちな子を出さないようにすることは、教育の大きなテーマの一つです。それに対する答えとして、こうしたものをデータとして扱えるということは非常に大事なことです。ただ、具体的な対応策については、お話に出たような個人の研究を深めなければならない部分もあります。そこに関し

ては、やはり教育委員会として、基本的な方針を提示したり伝えてあげたりすることが必要になるかと思います。それは校長や教頭といった管理職の仕事でもあるはずですので、そうした体制づくりがこれからの課題になると思いました。

○菊池委員

私は、昨年から学校訪問をさせていただいて、教育委員会に予算をつけてくださっている市長の教育に対する強い思いを感じています。私が現役だった頃に比べると、学校の職員数が非常に増えているという印象です。それは特別支援教育の支援員であったり、少人数学級に加配の先生方であったりと、人的資源が充実しています。これは、教育の質や目標が変わってきているからだと思います。先生方は非常に大変な状況ではありますが、この豊かな人的資源に加えて、NINOやNRTの到達診断などのツールがあり、一人一人を見る機会や環境は、同規模の生徒数を持つ他の市町村に比べれば非常に恵まれています。先生方には、ぜひ常陸大宮市で働いているうちに、研究心を持って学力向上や、学習の遅れている子を底上げする研究、あるいは能力をさらに伸ばしていく研究などを進めていただければと強く願っています。自分たちの置かれた環境の良さは、他の市町村に出ないと分からない部分もあるでしょう。ですから、管理職や他市町村を経験してきた方々が、常陸大宮市のこの環境の素晴らしさを広めていってくれればという思いがあります。木村先生、那珂市でのご経験と比較していかがでしょうか。那珂市は常陸大宮市に比べれば児童生徒数も多いですね。同じ「8時間」という勤務時間であっても、置かれている環境や、多忙感の中身についてはどう感じていますか。

○木村指導主事

そうですね、用務員さんとか支援さんですとか、あとTTの先生とかいてくださるので、それはすごくありがたいことだなと思います。私は中学校勤務でしたので、中学校だと空き時間があったりするので、小学校とは、また違うとは思いますが、そういったところではありがたいな、恵まれた環境だなと思っています。

○菊池委員

学校訪問をした際、私たちが小学校で勤務していた頃は、20人、30人の児童を自分1人で教えているという感覚でした。しかし、現在市内の学校を訪問しますと、教室には最低でも2、3人の大人がいて、数値的な結果を見てサポートしてくれる方がいます。現在は、そうした支援スタッフの方々と組織的に研究を進めている最中だと思います。ただ、その中でも重要になるのは「熱意」ではないでしょうか。学ぶ側の子どもたちの熱意と、指導する側の熱意、これらがうまく絡み合った時には、凄まじい力を発揮するのではないかと感じています。そうした点では、「先生方の力」という言葉になってしまうのかもしれませんが、各学校・学年・クラスにおけるリーダーシップを刺激し、良い雰囲気づくりをしていただければ、より大きな力が発揮できるのではないかと考えながら訪問をさせていただいています。

○鈴木市長

最後に、家庭での勉強時間は、学校から指導していますか。最低2時間以上はやりましょうとか。

○木村指導主事

以前は、例えば学年プラス10分といった時間の目安もありましたが、時間で指定してるかどうか。

かは、担任の先生によると思います。やはり復習しないと身につかない部分、漢字とか計算などは反復が必要になってきますので、そこはやるべきところを指定したり、1週間の中でこのぐらいはやった方がいいと伝えたり、各先生方がきちんと指導されていると思います。

○鈴木市長

最近の中学生は、勉強に取り組んでいないと、オンラインゲームなどにのめり込んでしまい、生活が不健全になるケースが非常に多いです。ですから、そこはやはり家庭の保護者の方々と学校の先生が連携し、そうならないよう「1日最低2時間は勉強しましょう」といった目安を設けても良いのではないかと感じています。

○内田企画部長

そろそろですが、他に委員の皆様からご意見がなければ、このあたりで終結の方をさせていただきたいと思います。では、(1)「学力向上にコミットする教育の推進について」は協議を終了とさせていただきます。

続きまして、(2)「教育教育施設の適正配置について」を議題とします。概要の説明を学校教育課よりお願いしたいと思います。

○小泉学校教育課長説明

○内田企画部長

説明が終わりましたので、それでは、この件につきまして皆様にご意見等をいただきたいと思います。同じように自由討論により行いますので、よろしく願いいたします。

○鈴木市長

もはや統合は避けられないのではないのでしょうか。令和13年の状態を見ると大賀小学校で全校生徒で20人、大宮北小で30人、山方小が35人、山方南小が32人、美和小が20人。今は、ほとんどバス通学になっていますよね。だから、統合になったとしても、通学の心配はないですね。

○小泉学校教育課長

はい。バスが出ていないのは、上野小学校と大賀小学校が出ておりません。それ以外の小中学校は全て出ておまして。増台する必要があるかもしれませんが、そのような形になります。

○鈴木市長

大宮北小は出ているのですね。

○小泉学校教育課長

はい。大宮北小は、旧塩田小学校の方から出ております。

○鈴木市長

審議会はまだ設置されて、第1回は去年の12月に開催しているのですね。

○小泉学校教育課長

はい。そうです。

○鈴木市長

学校は地域のシンボルですから、無くしたくはないですが。

○菊池委員

いいですか。先ほどの、学力向上にコミットするという部分で言えば、人間関係、HyperQ-Uですか。その中で今、最高の値が出ている学級集団づくり、そんな結果が出ています。それは人数が少なくなってきたということも影響しているのではないかと思うんですね。少人数の良さ、人間関係が親密になってきているという良さはあるのですが、やはりある程度、人数がいないと授業の中で多様な考えに触れることが難しくなってきます。お互いを認め合ったり、協力し合ったり切磋琢磨して、一人一人の能力、思考力、判断力、表面力といったものを伸ばしていくことを考えると、この数値や複式学級がこれだけ増えてきている状況では、これからの適正配置審議会の中で、いろいろな意見が出てくるかと思えます。令和4年11月の時点では、統合という話はありませんでしたが、この時期にこうした数値が出てきていることを考えれば、統廃合といったところを考えていかなければならなくなっていると強く感じます。私、実は美和中学校におりまして、美和中学校と緒川中学校の統合の際、最後に立ち会ったのですが、あの時もいろいろな意見がありました。子どもたちの活躍する場を保障してあげたいというような思いや、校舎の耐震問題もありました。保護者の中には、「いろいろな活動をさせたい」、「部活動でやりたいことをやらせたい」などという意見もありました。保護者が納得するなら地域の方もいいですよということで、区長さん方も地域の方にお話してくださり、明峰中学校という形になりました。ですから、現在の状況を伝えた上で、保護者や地域の皆さん、これから入学してくるであろう小さなお子さんの保護者の方とも話し合いを進め、何が子どもたちの成長にとって大切なのかを第一に考えながら、前向きに統廃合のことを進めていかなければならない。そう言っても、先ほども出ましたが、学校は地域のシンボリックな存在もありますから。第1回の適正配置審議会の会議録を拝見しました。保護者の中には、ぜひ残したいという意見もまだあります。そうした意見も大切に受け取りながら、話し合いをこれから進めていくということになるんだろうなと思っています。

○鈴木市長

こういう数字が明らかになってしまいますと何も声が出なくなっちゃいますよね。

○宮本委員

はい。先ほどやっぱり市長が仰った通り、学校は地域のシンボルであり、地域の方々の中には私以上に強い思いを持たれている方が大勢いらっしゃいます。ただ、7ページの審議会設置の目的のところ「全ての児童生徒に対し安定的な質の高い教育を」というところを考えると、市長のご指摘のとおり、児童数が少ないことで制限されてしまう活動があるのも事実です。少人数ゆえに手厚い指導が受けられるという利点もありますが、実際に子どもたちの様子を見たり話を聞いたりする中で、「小規模校だからこそその悩み」を感じ取る場面もあります。適正配置審議会の中でもPTA代表の方が4人入っています。十分な議論を重ねていただき、良い方向に向かうことを願っています。

○鈴木市長

PTAの代表は、4人入ってますからね。

○菊池委員

学校がなくなってしまうと、地域が衰退して寂しくなり、過疎化がさらに進むということがあります。一方で、児童生徒一人一人が、ある程度の集団の中で共に育む力を成長させていくことも重要です。それら両方を考慮しながら、進めていくこととなります。

○鈴木市長

ここは、いずれにしても丁寧な議論が必要ですね。この協議題は、適正配置審議会を設置しましたという報告ですね。

○小泉学校教育課長

はい。市内の児童生徒の現状を共有していただきたいと思います。

○内田企画部長

他にご意見はありますか。よろしいですか。意見がないようですので、以上で、義務教育施設の適正配置についての協議を終了させていただきます。貴重なご意見、大変ありがとうございました。それでは、本日予定しておりました協議題がすべて終了しましたので、議長に進行の方をお戻しいたします。

○鈴木市長

それでは続きまして、次第4「その他」に移ります。何かご意見等あればお願いいたします。無いようですので、以上で協議を終了いたします。進行を事務局にお返しします。

○内田企画部長

長時間にわたりまして、ご協力ありがとうございました。
これもちまして、令和7年度の常陸大宮市総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

〈午後2時45分 閉会〉

(議事録署名人)

橋本 勇夫

(議事録署名人)

宮本 亜希子